

令和4年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	33	65	49	48	3.9	10.3	3.9
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	31	53.9	57.5	58.6	54.3	53.2	11.9	3.8	7.0	4.4	4.0
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1

※

令和4年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

5教科の合計平均点は府平均を2.2ポイント、市平均を5ポイント上回る結果となった。

国語では府平均を0.1ポイント、市平均を0.5ポイント上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の領域で府平均・市平均を上回る結果となった。

社会でも府平均を2.1ポイント、市平均を2.8ポイント上回り、「地理的分野」「歴史的分野」の領域で府平均・市平均を上回る結果となった。

数学でも府平均を2.6ポイント、市平均を3.7ポイント上回り、「数と式」「図形」「データの活用」の領域で府平均・市平均を上回る結果となった。

理科では府平均を1.6ポイント、市平均を1.5ポイント下回ったが、「粒子」「地球」の領域では府平均・市平均を上回った。

英語では府平均を1ポイント、市平均を0.5ポイント下回ったが、「聞くこと」「書くこと」の領域で府平均・市平均を上回った。

平均無回答率もすべての教科で府平均・市平均を下回り、粘り強く最後まで問題に取り組むことができた。

<課題>

国語の「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」の領域で府平均・市平均を下回った。

理科の「エネルギー」「生命」の領域で府平均・市平均を下回った。

英語の「読むこと」の領域で府平均・市平均を下回った。

また、全般的に「思考・判断・表現」の観点に関する設問の正答率が府平均・市平均を下回り、短答式の解答も府平均・市平均を下回る結果となった。

【今後に向けて】

平均点が5教科合計で府平均・市平均を上回る結果になったことは、これまでの、習熟度別少人数指導やチームティーチングを実施し、生徒の課題に寄り添う指導を実施してきた成果であるといえる。

平均無解答率も低いことから、生徒が粘り強く問題に取り組むことも育まれてきた。

しかしながら、「思考・判断・表現」に関する観点到課題があることが考えられ、克服する必要がある。

今後も、習熟度別少人数指導やチームティーチングを国語・数学・英語のすべての授業で実施し、引き続き、きめ細やかな指導を行っていく。また、各教科でICTを積極的に活用した「個別最適な学習」を進めるとともに、「協働的」「主体的・対話的で深い学び」のある授業を進め、苦手克服、基礎的な知識の定着につながる指導に努めていく。